

第1章 新市のすがた

1 新市の概要

新市は、茨城県の南西部、首都50km圏、県都水戸からは約70kmの距離に位置し、新市の全域が首都圏近郊整備地帯に指定されている。

新市に隣接する市町は、東に水海道市・石下町、北に古河市・八千代町、西に境町、南に利根川を挟んで千葉県野田市と接している。

新市の総面積は、123.18km²（岩井市：90.72km²、猿島町：32.46km²）で、県土の約2.0%を占めている。区域は、東西約12km、南北約20kmとなっている。

新市をとりまく自然環境は、新市の南西側に利根川、南側に飯沼川、東側に西仁連川などの河川が流れているとともに、新市の南端には、菅生沼があり、野鳥や昆虫などが生息する首都圏において貴重な水辺空間が残されている。また、新市の中央部は猿島台地と呼ばれる概ね平坦な台地が広がっており、田・畑や山林など良好な自然環境が残されている。

気候は、太平洋型で、年平均気温は15.6℃、年間降雨量は1,494mmと比較的温暖な地域となっている。



坂東市の概略

坂東市（旧岩井市・猿島町）の人口は、平成7年をピークに横ばい・減少傾向に転じており、平成17年4月1日現在の常住人口調査によると、総人口は57,788人となっている。

世帯数は16,566世帯で、昭和60年の13,242世帯と比べ、20年間で約1.3倍の伸びを示している。

1世帯当たりの人員は、昭和60年の4.35人／世帯に対して、平成17年では3.49人／世帯と、年々核家族化する傾向にある。

○人口及び世帯数の推移

（総人口：人、世帯数：世帯、1世帯当たりの人員：人／世帯）

		昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成16年
総人口		57,647	58,699	59,738	58,673	57,901
内訳	岩井市	42,177	43,102	44,325	43,421	42,746
	猿島町	15,470	15,597	15,413	15,252	15,155
世帯数		13,242	14,227	15,325	15,707	16,491
内訳	岩井市	10,096	10,930	11,856	12,070	12,641
	猿島町	3,146	3,297	3,469	3,637	3,850
1世帯当たりの人員		4.35	4.13	3.90	3.74	3.51

資料：昭和60年から平成12年までは国勢調査（各年10月1日現在）
平成16年は常住人口調査（4月1日現在）

平成16年の年齢3区分別人口構成比は、年少人口が14.6%、生産年齢人口が66.5%、老年人口が19.0%となっている。各区分別人口の推移は、年少人口が減少傾向、生産年齢人口が横ばい傾向、老年人口は増加傾向にある。

平成12年の産業別就業者人口は、第1次産業が14.1%、第2次産業が42.7%、第3次産業が42.9%となっている。各産業の就業者数は、第1次産業が減少傾向、第2次産業が横ばい傾向、第3次産業が増加傾向にある。

○産業別就業者人口の推移

(上段：人，下段：%)

	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年
就業人口	29,863	31,367	31,902	31,952
第1次産業	7,722	6,056	4,722	4,517
構成比	25.9	19.3	14.8	14.1
第2次産業	11,778	13,699	13,953	13,654
構成比	39.4	43.7	43.7	42.7
第3次産業	10,357	11,566	13,174	13,705
構成比	34.7	36.9	41.3	42.9

資料：実績値は国勢調査（各年10月1日現在）

※分類不能の職種があるため、構成比率の計が100に満たない場合がある。

2 岩井市，猿島町の沿革

(1) 岩井市のあゆみ

岩井市の地名のおこりについては明らかではないが、「石井」という清冽な湧水の井戸があり、古代人がこの湧水の近くに居を構えたといわれている。奈良時代になると、石井（いわい）郷という行政区域としてこの地名が登場してくる。このようなことから、石井の井戸が「岩井」という地名のおこりであるといわれている。

平安時代になると、平家一門から「平将門」が出現し、承平5年（935年）に地名のおこりとなった石井に営所を築いた。将門は天慶2年（939年）に常陸国府を討ち、さらに下野・上野の国司を追放して関八州を手中に治め、新皇と称した。

しかし、天慶3年（940年）藤原秀郷、平国香の子貞盛に攻められ、岩井の北山付近で戦死したといわれている。

荘園が発展した鎌倉・室町時代にかけては、石井郷の各所に親鸞上人の足跡が残っており、この地方の教化の中心となっていた。

その後、豊臣秀吉の天下統一により荘園制がくずれ、後に猿島郡岩井村などと呼ばれるようになった。江戸時代には下総国関宿藩の支配（一部天領）を受け、猿島郡下郷と呼ばれていた。明治維新以後廃藩置県を経て、明治8年には茨城県に属し、明治22年の市町村制の施行により8つの新しい村となった。

昭和30年に1町7村（岩井町、弓馬田、飯島、神大実、七郷、中川、長須、七重各村）が合併して岩井町となり、昭和33年芽吹大橋の開通を契機とした工場誘致などの影響を受け、経済・社会・文化等がめざましく発展するなかで、諸機能の集積も進み、昭和41年には近郊整備地帯の指定を受け、昭和47年には県下18番目の市制を施行した。

(2) 猿島町のあゆみ

猿島にいつ頃から人が住みはじめたのかは定かではないが、現在のところ町内で先土器時代の遺跡は確認されていない。縄文時代前期になると、旧飯沼の沿岸部に集落が形成されたことが数多くの遺跡から分かる。

弥生時代の中期になると関東にも稲作が広まり、大規模な農業共同体集落が形成されるようになった。

鎌倉幕府の成立とともに、関東は一気に政治の表舞台に躍り出る。猿島の町域を含む下河辺庄は、幕府の御家人下河辺氏が治め、その一部は幸嶋氏に受け継がれていくことになった。鎌倉幕府の力が弱まると、常陸国を中心とした関東における南北朝の争いが激化し、暦応2年（1339年）7月には飯沼の南方の下河辺庄一帯で合戦が行われた。戦国時代には後北条氏が北関東侵攻の拠点として天正5年（1577年）に飯沼城（逆井城）を築城するが、天正18年（1590年）に本拠地の小田原城を豊臣秀吉に攻略され滅亡、飯沼城も廃城となった。

享保年間には飯沼新田の開発が行われ、さらに流通経済の発展にともない、猿島茶に代表される商品物産の生産も盛んになった。

昭和31年4月1日に沓掛町と富里村が合併し、富里町が誕生、同日「猿島町」に名称変更した。さらに翌32年には石下町の孫兵衛新田、左平太新田、栗山新田の一部を編入し、現在の町域となった。

第2章 合併の経緯

1 合併の背景

岩井市、猿島町は、茨城県南西部の水と緑に包まれた豊かな自然環境を有する田園都市として発展してきた。本地域は、首都50km圏に位置しているにもかかわらず、鉄道等の首都圏との広域交通体系に恵まれていなかったため、首都圏の外延化による無秩序な乱開発などから免れてきた。

通勤・通学、買い物、医療など、住民の日常生活の行動範囲は、一体的な地域を形成しており、地域住民の生活行動に合わせた行政区域の確保と対応が必要となってきた。

このような状況の中で、ごみ処理や消防体制などについて共同で取り組み、公共施設の相互利用なども実施してきた。また、広域的な諸計画においても、一体的な地域としてゾーニングされ、地域振興が図られてきた。

これからの自治体は、日常生活圏の広域化に対応した行政区域の再編や、少子高齢化・情報化など社会情勢の変化に伴う多様化・高度化した行政需要への対応、地方分権の進展などに伴う強固な行財政の基盤づくりが求められている。

また、首都圏中央連絡自動車道（圏央道）、国道354号バイパス、つくばエクスプレス等の広域交通体系の整備が進むにつれて、地域振興の気運や地域連携強化の必要性が高まってきている。その実現のため、一体的で計画的な行政運営並びにそのための推進体制及び基盤づくりが急務となってきた。

2 合併の必要性

(1) 日常生活の行動範囲拡大への対応

岩井市、猿島町は、地理的に連たんし、歴史的・文化的に深い関わりを有しているほか、交通・通信手段等の進展によって、通勤・通学、買い物、医療などの日常生活の行動範囲も、現在の行政区域を越えて広域化していることから、これらに対応した広域的で均質な行政サービスの提供が求められている。

このような状況のなか、ごみ処理や消防体制などについて共同で取り組み、また、公共施設の相互利用なども実施してきた。

今後、首都圏中央連絡自動車道や国道354号バイパス、主要地方道結城坂東線バイパス等の整備により、当地域では住民生活の様々な分野で一層一体化が促進すると予想され、ますます広域的な取り組みが必要になってきている。

このため、岩井市、猿島町が合併することにより、このような行政需要に対応した一体的で、計画的な行政を推進し、広域的かつ効率的なまちづくりを進める必要があった。

(2) 地方分権と多様化、高度化する行政需要への対応

少子高齢化や情報化の進展、女性の社会進出などの社会情勢の変化に伴い、行政需要は多様化、高度化している。

このような行政需要に対応するためには、行政の企画立案能力・総合調整能力の向上、専門職員の確保や養成など、総合的な行財政能力の強化が必要となる。

また、地方分権の進展に伴い、住民への身近なサービスの提供は、行政が自らの判断と責任において決定し、実施することが重要になっている。

このためには、基礎的自治体として主体的、自立的な行政運営が可能となるよう、一層行財政基盤を強化することが不可欠であった。

(3) プロジェクトなどへの対応

岩井市、猿島町は、首都圏中央連絡自動車道や国道354号バイパス等の整備により、新たな交流時代を迎えることとなる。今後のまちづくりにおいては、これらの効果を有効に活用していくことが求められており、広域的に取り組んでいく必要がある。

また、岩井市、猿島町は全国でも有数の生鮮野菜の生産を誇る地域であり、広大な畑地は当地域を特徴付ける共通の地域資源である。今後、地域間競争が激しさを増す中で、広域的な取り組みによりブランド化を

図るなど、地域の発展や活性化につなげていく必要があった。

3 合併に向けた動き

当地域の合併については、平成14年5月に古河市、岩井市並びに猿島郡5町（総和町、五霞町、三和町、猿島町、境町）の市町長、議会議長等で構成する「猿島地域市町合併懇話会」が設置されたことで合併の協議が開始され、この中で合併特例法の期限内に実現可能な枠組みを検討すること等が話し合われた。

岩井市、猿島町、境町においては、平成14年8月から9月にかけて、岩井市議会、猿島町議会、境町議会において合併推進に関する特別委員会が設置され、合併に関する協議検討を進めてきた。

このような中、平成14年11月から平成15年2月にかけて、この1市2町の合併推進に関し、地域説明会を開催するとともに、住民の意向を調査するためのアンケート調査を実施し、合併の賛否については、60%～70%以上の賛成、そのうち1市2町での合併については、50%～70%以上が賛成となった。

(1) 市町村合併研究会

〔平成13年4月4日〕【岩井市】市町村合併研究会を設置（以後12回会議開催）

〔平成13年8月1日〕【猿島町】市町村合併に関する研究部会を設置（以後3回会議開催）

〔平成14年5月20日〕【岩井市】市町村合併研究会で市町村合併に関する報告書作成

○岩井市市町村合併研究会経過

期 日	内 容
平成13年4月4日	・岩井市市町村合併研究会設置
第1回研究会 平成13年4月13日	・研究会委員任命（会長助役、課長級12名） ・研究会運営（スケジュール）について ・市町村合併を取り巻く状況（国・県）について
第2回研究会 平成13年4月25日	・合併の必要性と効果 ・近隣自治体行政財政等現状分析 ・広域行政、個別事業における関係市町との現状分析 ・組み合わせ案の検討
平成13年5月8日	・課長会議で各課に、「個別事業における猿島町・境町・水海道市との広域的取り組みの状況」提出依頼
第3回研究会 平成13年5月17日	・近隣自治体行政財政等現状分析（第2回） ・広域行政、個別事業における関係市町との現状分析（第2回） ・組み合わせ案の検討（第2回）
第4回研究会 平成13年6月1日	・近隣自治体行政財政等現状分析（第3回） ・広域行政、個別事業における関係市町との現状分析（第3回） ・類似団体との比較検討
第5回研究会 平成13年6月22日	・類似団体との比較検討（第2回） ・近隣市町との合併勉強会発足について報告
第6回研究会 平成13年8月6日	・類似団体との比較（総務関係） ・合併研究内容の取りまとめ方法の検討 ・広報による合併啓発について検討
第7回研究会 平成13年8月28日	・分野別の合併効果と課題の検討（第1回） （検討する分野、内容について決定）
第8回研究会 平成13年10月10日	・分野別の合併効果と課題の検討（第2回） ・合併の仕組み等について広報掲載の検討

第9回研究会 平成13年10月18日	・分野別の合併効果と課題の検討（第3回）
平成13年10月21日	・「広報いわい10月号」で合併の特集記事掲載
第10回研究会 平成13年10月31日	・分野別の合併効果と課題の検討（第4回）
第11回研究会 平成13年12月21日	・中間報告書（案）について
平成14年1月15日	・市長へ中間報告
第12回研究会 平成14年5月13日	・合併後のまちの将来像の検討 ・研究会のまとめについて ・最終報告書（案）について
平成14年5月20日	・市長へ最終報告

○猿島町市町村合併に関する研究部会経過

期 日	内 容
第1回研究部会 平成13年8月1日	・市町村合併を取り巻く国・県の動向について ・今後のスケジュールについて
第2回研究部会 平成14年9月26日	・市町村合併講演会
第3回研究部会 平成14年10月	・合併に関する職員アンケート調査報告書について

(2) 猿島郡市町合併担当課長会議

〔平成13年6月7日〕・第1回会議開催（以後11回会議開催）

（古河市・岩井市・総和町・五霞町・三和町・猿島町・境町の2市5町）

※第4回会議以降、古河市、総和町参加せず。

〔平成14年4月23日〕猿島郡市町合併担当課長会議で「猿島地域市町合併に関する報告書」作成（岩井市・五霞町・三和町・猿島町・境町の1市4町）

期 日	内 容
第1回 平成13年6月7日	・猿島郡町村会において、岩井市、古河市を含めて、猿島郡町村会の事業として、合併の研究を取り組むことになり、最初の会議を開く
第2回 平成13年7月26日	・県職員による研修会 ・市民への気運醸成のため広報活動の実施について
第3回 平成13年9月27日	・広報活動を行うことを確認 ・議論を進めていくには、各首長の了解を要することを確認 ・様式を定めて基礎資料を整理する旨決定
第4回 平成13年11月1日	・古河市長、総和町長から当面、合併を考えていないので、今回から参加しない旨連絡あり（以後、1市4町で検討） ・年度内に合併懇話会を立ち上げたいが、猿島町は、年度内では難しいので平成14年度とすることで意見の一致をみた
第5回 平成13年12月26日	・基礎資料の整理 ・組み合わせパターン（資料作成をする） 1 岩井市、境町、猿島町、三和町、五霞町 2 境町、猿島町、三和町、五霞町 3 岩井市、境町、猿島町

	4 境町, 猿島町, 五霞町 5 境町, 五霞町
第6回 平成14年1月29日	・基礎資料の整理
第7回 平成14年2月28日	・合併懇話会の会則について 規約, 構成員の検討 ・基礎資料の整理
第8回 平成14年3月1日	・合併懇話会の会則について 三和町から総和町, 古河市を加えるよう要望あり ・5パターンのうち岩井市, 境町, 猿島町, 三和町, 五霞町のパターンを例として, メリット・デメリットを整理することを決定
第9回 平成14年4月5日	・合併懇話会の会則について 名称を「猿島地域市町合併懇話会」とし, 5月下旬に発足する
第10回 平成14年4月23日	・猿島地域合併に関する報告書作成
第11回 平成14年5月24日	・「猿島地域市町合併懇話会」発足

(3) 猿島地域市町合併懇話会

〔平成14年5月24日〕猿島地域市町合併懇話会発足

・第1回会議開催（以後5回会議開催）

（古河市・岩井市・総和町・五霞町・三和町・猿島町・境町の2市5町）

期 日	内 容
第1回 平成14年5月24日	・会則（名称, 構成員など）の協議 ・役員選出 ・懇話会の設立趣旨として, 合併を前提とした懇話会とすることを確認 ・2市5町による合併, 段階的な合併等の意見交換
第2回 平成14年7月31日	・各市町の取り組み状況について報告 ・組み合わせについて意見交換, 17年3月までに2市5町は困難であるので, 段階的に合併することとする旨, 意見の一致をみた
第3回 平成14年10月9日	・県内の動向について, 県より説明を受ける ・情報交換 古河市, 総和町, 三和町の状況報告 ・次回会議で, 総務省から直接説明を受けることを決定
第4回 平成14年12月3日	・総務省自治行政局市町村課 課長補佐 川尾正嗣 氏による合併説明会
第5回 平成15年3月26日	・経過報告 ・今後の方針について（会を解散し, それぞれの市町が合併協議を進めていくこととなった）

(4) 市町議会

〔平成14年8月9日〕【境 町】境町議会合併推進特別委員会設置

〔平成14年9月9日〕【猿島町】猿島町議会市町村合併調査特別委員会設置

〔平成14年9月20日〕【岩井市】岩井市議会市町村合併推進特別委員会設置

(5) 住民説明会等

〔平成14年11月〕～〔平成15年2月〕

岩井市, 猿島町, 境町の1市2町において住民説明会を実施するとともに, 住民アンケートを実施

[住民説明会]

【岩井市】平成15年1月18日～2月2日まで9箇所で開催

【猿島町】平成14年11月12日～12月14日まで20箇所で開催

※境町は、地区懇談会で合併について説明

○岩井市市町村合併地区説明会

日 時		地区名	会 場	参加人数
1月18日(土)	午後7時から	中川地区	小山上集落センター	105
1月19日(日)	午後7時から	神大実地区	神大実小学校多目的ホール	95
1月24日(金)	午後7時から	七重地区	七重小学校多目的室	90
1月25日(土)	午後7時から	長須地区	長須小学校体育館	50
1月26日(日)	午前10時から	岩井第一地区	中央公民館第一会議室	57
1月26日(日)	午後7時から	弓馬田地区	馬立コミュニティセンターふれあい館	51
2月1日(土)	午後7時から	七郷地区	中央公民館七郷分館	76
2月2日(日)	午後2時から	岩井第二地区	地域福祉センター夢積館娯楽室	73
2月2日(日)	午後7時から	飯島地区	飯島コミュニティセンターいなほの里	51
計				648

①期 間 平成15年1月18日～2月2日（9回 小学校区単位）

②出席者 市長、助役、教育長、総務部長、合併担当課、地元議員等

③説明内容 市町村合併の必要性、岩井市の現状・取り組み、合併の組み合わせ、合併の手順等

④説明資料 パンフレット「市町村合併を考えよう 未来のふるさと」

○猿島町市町村合併懇談会

日 時		行政区名	会 場	参加人数
11月12日(火)	午後7時から	西生子・北向内	北向内第二公民館	27
11月13日(水)	午後7時から	道正内・北生子	農業構造改善センター	14
11月14日(木)	午後7時から	中生子西・中生子東	中生子東集落センター	43
11月15日(金)	午後7時から	菅谷南・菅谷西	菅谷南コミュニティセンター	34
11月16日(土)	午後7時から	菅谷北・大房	菅谷北公民館	30
11月17日(日)	午前10時から	釜口・生子新田	役場会議室	17
11月17日(日)	午後2時から	西坪・前原	前原公民館	28
11月17日(日)	午後7時から	砂崎・川端	砂崎田園都市センター	52
11月21日(木)	午後7時から	上新田・沼の田	上新田公民館	54
11月22日(金)	午後7時から	下新田・前山	前山公民館	26
11月23日(土)	午後7時から	山西・山上	山西集落センター	45
11月25日(月)	午後7時から	井岡・駒寄	役場会議室	13
11月26日(火)	午後7時から	向原・根古内	根古内公民館（専勝院）	23
11月28日(木)	午後7時から	西村西・西村東	西村公民館	28
12月9日(月)	午後7時から	西村南・西村中	西村公民館	11
12月10日(火)	午後7時から	深井・西村北	西村公民館	12
12月11日(水)	午後7時から	中北・山崎	山崎公民館	18
12月12日(木)	午後7時から	諏訪山・刈浜	諏訪山公民館	26
12月13日(金)	午後7時から	柿台・塚越	塚越農村集落センター	21
12月14日(土)	午後7時から	釜前・然山	釜前公民館	17
計				539

- ①期 間 平成14年11月12日～12月14日（20回 行政区単位）
- ②出席者 町長 助役 管理職 企画財政課企画係
- ③説明内容 合併の必要性及び1市2町の方向性等

[アンケート]（回答期間）

【岩井市】平成15年2月7日～2月17日

【猿島町】平成14年12月24日～平成15年1月10日

【境 町】平成15年1月14日～2月4日

(6) その他

〔平成14年12月3日〕猿島地域市町合併懇話会主催で、総務省自治行政局課長補佐からの合併説明会開催

〔平成14年12月17日〕岩井市長，猿島町長，境町長間において協議

〔平成15年1月28日〕県職員派遣申請

〔平成15年2月26日〕岩井市長，猿島町長，境町長間において協議

〔平成15年3月12日〕岩井市長，猿島町長，境町長が1市2町の合併推進について共同記者会見

〔平成15年3月25日〕岩井市・猿島町・境町合併研究会を設置

〔平成15年4月1日〕県派遣職員が岩井市に赴任，岩井市・猿島町・境町職員を合併研究会事務局へ配置